

## はじめに

本書は、日本人大学生の英語ライティング力を高めるための教材です。ただし、様々な英語表現を探求する日本英語表現学会のテキスト研究部会が手掛ける教材として、以下のような点で、従来のライティング教材とは異なったアプローチを採りました。

- ① 本書では可能な限り、「語彙」や「表現」の習得から入る、いわゆるボトムアップ型の学習を意識しました。同時に、昨今のライティング教材の主流である「構造」についても触れています。
- ② ライティングの手法を学ぶだけでなく、それらが実際の文章中でどのように使われているかを確認できるよう、各 Unit の末尾には比較的難易度の高い reading passage を配置しました。したがって、本書はライティング教材のみならず、状況に応じてリーディング教材としても使用可能です。
- ③ 著者の手の内（文章を執筆する過程）を見せるような形でライティング指導ができるよう工夫しました。一般的なテキストは画一的な構造やスタイルを学習するものが多いですが、実際のところ、書き手はその都度様々な事柄（その最たるものが「読み手」の存在）に配慮しながらライティングを行っています。本書の著者達も、このことを踏まえて、書き手や読み手の立場を意識しながらテキスト作成を行いました。

これらの特徴を持つ本書が、少しでも効果的な英語ライティング学習／指導の役に立てば、著者一同これに勝る喜びはありません。なお、内容に関しましては、本書のタイトルが示すように、日本文化の再発見をテーマとしました。2020年の東京オリンピックは、世界的なコロナウイルス感染の影響で延期となりましたが、事態の収束に伴い、再び国際色豊かな日常が戻ってくることでしょう。外国からの訪問客が増加すれば、日本固有の文化を説明・紹介する機会にも多く恵まれるはずです。英語という外国語を介して日本文化に触れることは、その独自性を再発見することにもつながるでしょう。本書の学習を通じて、英語で日本について発信する方法を身に付けて頂けることを願っております。

最後になりましたが、刊行にあたっては、日本英語表現学会の先生方から多くのご助言を頂きました。特に、企画からテキストの新しいアイデアに至るまで、吉田雅之先生から種々の刺激的なご提案を賜りました。辞書の使い方について山田茂先生から玉稿をお寄せ頂けたことも本書の華となりました。会長の藤本昌司先生からも、全体の統括面で色々のご示唆を頂戴いたしました。他にも学会員の先生方のお力添えがなければ、本書の内容を充実させることはできませんでした。さらに、株式会社南雲堂様にもこのような出版機会を頂き、編集段階でもご苦勞を賜りました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(執筆者)  
新井 巧磨  
梅宮 悠  
大橋 文香  
佐竹 幸信  
田村 亮  
William Weatherly

### ***Writing Skills for Readers: Vocabulary to Essay on Japan***

Copyright© 2021  
by JASEUS Language Text Woking Group  
No part of this book may be reproduced in any form without written permission  
from the authors and Nan'un-do Co., Ltd.

著者一同  
2020 年盛夏

## 本書の特長

日本語のエッセイと英語の **Essay** は根本的に異なるものです。前者は、筆者の経験を読者と共有するために書かれた散文です。それに対して後者は、著者の主張に正当性があることを訴えて読者を説得するために書かれます。本書で使用する **Essay** という語は、日本語のエッセイとは明確に区別されます。

### ◎ 本書の目的

1. **Writing** や **Reading** に必要な語彙知識を固め、**Essay** の読み書きに応用できるようになること
2. **Essay Writing** の基礎を学び、段落構成の整った 300 語以上の英作文ができるようになること
3. **Essay** の構造を知り、**Reading** 能力を高め、効率的に英文が読めるようになること

### ◎ Writing から Reading へ / Reading から Writing へ

**Essay** には多くのルールやテクニックが存在します。それらを学習することで **Writing** の能力が飛躍的に向上するのはもちろん、**Reading** の能力も高めることが期待できます。**Writing** の教科書として使用する場合は、各 **Unit** に収録された **Essay** を英作文の具体例に見立てることができます。一方、**Reading** の教材として利用する場合は、その読解のために必要なルールやテクニックを **Writing Section** の解説や設問からも確認することができます。

### ◎ すべては読み手のために

**Essay** には読者が読みやすいように様々な工夫が施されています。日本語の文章を翻訳機にかけて完成というわけではないのです。本書では「どのようにすれば読みやすい文章が書けるのか」に焦点を当てています。読みやすさのために必要な要素は主に次の 3 点に集約されます。

1. 客観性……主観的表現を排除する、データや具体例で根拠を示す
2. 一貫性……話題を絞る、段落構成を整える、文と文の繋がりを作る
3. 経済性……同じ内容なら短い文を使う、複文よりも単文を使う

これらを組み入れることで、読み手の関心を惹き付けるような **Essay** を書くことができます。主観的な表現を排除し、客観的でわかりやすい文章を書くためには、文法の正確さに加えて、語彙に含まれる様々な情報も理解しておかなければなりません。「類語」や「上位概念と下位概念」などを用いて表現に幅を持たせ、読み手に飽きられない工夫をしましょう。さらに、同じ意味をもった別の表現に書き換えられれば、文の繋がりが滑らかになり、より読者に伝わりやすい文章になります。

本書では、「日本に興味のある外国人留学生」を読者と仮定し、以上のようなポイントをおさえながら効果的な **Essay** の書き方（読み方）を考えていきます。

### ◎ 本書の構成

上記で示した 3 点を習得していくために、本書は以下のような構成になっています。

Unit	内容	主な学習項目
1~3	<b>Essay</b> 全体で求められるもの	・ 三人称のみで表現する ・ 3 つの文の繋がりを意識する

4~9	<b>Essay</b> の中心となる部分	・ 本論の基本的構造と展開方法を把握する ・ 短く簡潔な文で表現する
10~12	<b>Essay</b> をより読みやすくする部分	・ 序論と結論の構造及びその役割を把握する ・ 法助動詞を適切に活用する
13~15	応用と実践	・ 抽象性の高い内容を表現する ・ より長い英作文に挑戦する

各 **Unit** は次のように構成されています。

### **[Vocabulary]**

各 **Unit** のテーマに関わる写真が 6 枚提示されています。これらから連想される言葉を思いつく限り書いていきます。写真に写っているものだけでなく、それらの同義語や類義語、上位概念と下位概念に関する語までもおさえると、語彙の幅が広がり効果的な **Writing** や **Reading** につながっていきます。解答欄には名詞・動詞・形容詞・副詞という品詞の区分を設けています。これらの分類を意識することも文章を構築するうえでは重要です。品詞がわからない場合は辞書を使って調べましょう。

### **[Pre-writing]**

「**Vocabulary**」で学習した語彙を用いて、文を作成します。これ以降のセクションに登場する語彙もここで確認しておきましょう。

### **[Drop-by]**

コラムです。その **Unit** で扱っている **Topic** に関連する様々な語彙や背景について紹介しています。

### **[Grammar]**

各 **Unit** で中心的に扱う文法項目や、**Essay Writing** に必要な規則や技術を学習します。

### **[Writing Task 1]**

「**Vocabulary**」や「**Pre-writing**」において学習した表現を中心とし、その **Unit** のテーマに沿った語句や文を一段落分の長さに相当する文章で確認していきます。日本語の自然な言い回しを、英語ではどのように言い換えているか、文と文のつながりを良くするために、どのような工夫がされているか、それらを見極めるのも学習のポイントです。

### **[Writing Task 2]**

**Essay Writing** に欠かせない技術や知識を紹介する箇所です。**Unit** ごとに異なる様々な問題を解きながら、それらを身につけていきます。

### **[Writing Task 3]**

応用問題、あるいは発展的な課題です。**Writing** 中心の授業、または習熟度の高い学習者向けです。

### **[Reading Task]**

その **Unit** のテーマに沿った **Essay** の一例です。内容理解のための問題を解きながら、**Essay Writing** の基礎も確認できるようになっています。**Essay** 全体の内容もちろんですが、その細部において読み手のためにどのような工夫が施されているかにも注目しながら読んでみましょう。

## 辞書の使い方 (1)

山田 茂

### はじめに

#### アウトップを意識したインプットを！—辞書こそが最強のツール

安易に翻訳サイトなどに頼らず、是非、辞書（紙、電子、ウェブ、アプリ）を使ってほしい。なぜか？現在の辞書は、コーパス（言語のビッグデータ）に基づき、プロにより編集、執筆されているので、内容が信頼できる。意味のみならず、発音、文法、語法、語源、挿絵もワンストップで示してくれる。電子辞書では、これらの情報に縦横無尽にアクセスできる。意味を調べるだけではもったいない！文法、コロケーション、例文もチェックし、発信に使える情報、表現をどんどんインプットして行ってほしい。その積み重ねが、英語を適切に話し、書けることにつながる。辞書の使い方(1)および(2)では、受信（読解）、発信（作文）のための英語辞書の使い方のポイントを解説する。外国人学習者向けの学習英英辞典も扱う。

#### 受信（読解）のための辞書の使い方

##### 英和辞典と英英辞典

下の **embrace** の意味は「抱擁する」ではない。英和辞典と英英辞典でチェックしてみよう。

They eventually **embraced** an appearance featuring extremely tanned skin with wide white eyeliner and lipstick, a style known by the name yamanba-gyaru (monstrous gals)  
本書 p. 54, l. 22.

**em·brace** /ɪmbrɛɪs, em-/  
一画 (em·brac·es /~ɪz/; em·braced /~t/; em·brac·ing) ㊦  
1 〈…〉を抱き締める, 抱擁する (hug).  
・The mother *embraced* her child. その母親は子供を抱き締めた。  
2 《格式》 〈申し出など〉を喜んで受ける (accept).  
3 《格式》 〈主義・信仰など〉を奉ずる, いただく, 信ずる。  
4 [進行形なし] 《格式》 〈…〉を含む, 包含する (include) 《[all-  
embracing]》。  
一画 抱き合う。  
・They shook hands and *embraced*. 彼らは握手して抱き合った。  
【語源】古(期)フランス語で「両腕 《[brace] 【語源】》の中へ 《[em-]》」の意。  
一画 (em·brac·es /~ɪz/)  
1 ㊦ 抱擁。  
・in a close *embrace* しっかりと抱き合って。  
2 [単数形で] (申し出などの)受け入れ; (主義などの)信奉。

『ルミナス英和辞典』© Kenkyusha Co., Ltd.

#### 2. VERB

If you **embrace** a **change**, **political system**, or **idea**, you **accept** it and **start supporting** it or **believing** in it.  
[formal]  
He **embraces** the new information age. [VERB noun] ㊦  
The new rules have been **embraced** by government watchdog organizations. [be VERB-ed] ㊦  
Synonyms: **accept**, **support**, **receive**, **welcome** More Synonyms of **embrace**

COBUILD Advanced English Dictionary の embrace の項目 © Collins

それぞれの辞書の2番目の語義「受け入れる」が該当することがわかる。英英の定義を訳すと以下のようになる：

If you **embrace** a change, political system, or idea, you **accept** it and **start supporting** it or **believing** in it.

もしあなたが変化や政治制度や考えを **embrace** するのであれば、あなたはそれを受け入れ、それを支持または信奉し始める。

文定義は、if節が見出し語の使い方を、主節が意味を示している。if節は、**embrace**（「受け入れる」）が、主語に「人」、目的語に「変化、政治制度、考え」などを取る\*他動詞であることを示している。

英和辞典は日本人向けられており、わかりやすい。受信用の二言語辞書としては世界トップレベルにある。情報量（収録語、語義数）においては一般的に学習英英辞典を凌駕する。専門用語、固有名詞なども数多く収録されている（そもそも専門用語を英英辞典で引いてもピンとこない！）。

\*どのような範疇の語と共に使われるか、どのような範疇の語に関して使われるかを「選択制限」という

#### 辞書検索プロセス

辞書学の大家ハートマン教授（Hartmann 2001: 92-89）は、辞書検索を以下の7段階に分けている。普段何気なく行っている辞書検索だが、解説と注記を加えたので振り返ってみよう。

辞書検索プロセスの7段階	解説	注記
1. 問題の認識	わからない、しっくりこない表現があることを認識する	基本語の周縁的語義（意味）、成句がスルーされがちなので要注意
2. 問題となる語の特定	問題が起因する語句を特定する	電子辞書では、見出し語／成句／例文のいずれで引くかの決定が重要になる
3. 辞書の選択	問題を解決するために適切な辞書を選ぶ	電子辞書の「複数辞書検索」機能を使えば辞書を選ぶ必要はない
4. 見出し語の選択	（例えばイディオムなどは）どの見出し語の下に適切な情報が載っているかを決定する	電子辞書では、見出し語を完全に入力しなくても候補を示してくれる。「成句検索」では見出し語を特定する必要がない
5. 語義の選択	何番の意味の下に適切な情報が載っているかを決定する	英英辞典では語義がたくさんある項目には、サインポスト（意味の小見出し）が付加され、語義選択がしやすくなっている
6. 有用な情報の抽出	定義、訳語、例文、語法欄などを読み、問題解決に使える情報を採取する	英英辞典では、定義が2000～3000の基本語でなされ、定義文も導入され、定義がわかりやすくなっている
7. 情報の活用	辞書から得られた情報を活用し所期の問題の解決に役立てる	元の文と辞書との間を行きつ戻りつしながら問題を解決していくこともある



## 文法、品詞が重要！

上記検索プロセスの「4. 見出し語の選択」、「5. 語義の選択」において、文法、品詞の知識が重要となる。辞書は見出し語が品詞別に立てられており、各語義にも有用な文法情報が示されている。これらの情報は英文を組み立てる時のみならず、辞書の検索でもキーとなる。

下の文中の **talks** を『ルミナス英和辞典』で引いてみよう。

Trade **talks** are progressing well.

まずは「4. 見出し語の選択」だが、品詞は何か？ **talks** は **talk** の複数形で、名詞である。次に「5. 語義の選択」だ。名詞の項目には6つの語義がエントリーされている。どの語義が該当するか？

- 一画 (～s /～s/)
- 1 **C** 話, 談話, 座談 (Urspeech 類義語).  
・We had a good **talk about** it. 私たちはそのことについてじっくりと話し合った。  
・We had several **talks with** them **about** it. 私たちはそれについて彼らと数回話し合った。
- 2 **C** (非公式の) 講話, 講演 (speech); 講義.  
・give a **talk to** the students **on [about]** reading 学生に読書について(くだけた)話をする。
- 3 [複数形で] 会談; 相談; 協議.  
・preliminary 「peace **talks [talks on]** peace」 和平交渉の予備会談[折衝].  
・summit **talks** 首脳会談.  
・I had many **talks with** the doctor **about** my boy. 息子のことで医者とも何度も相談した。
- 4 [the ～] 話の種, 話題; うわさの種; **U** うわさ.  
・「He is [They are] **the talk of** the town. 彼[彼ら]は町中のうわさの的だ。  
・【言い換え】 There is a lot of **talk of** her going to France next month. <N+of+動名>=There is a lot of **talk that** she is going to France next month. <N+that 節> 彼女が来月フランスへ行くといううわさでもちぎりだ。
- 5 **U** [普通は all [just] ～] **C** 意味のない話, 口先だけのこと.  
・That's **just** (a lot of) **talk**. それは単なる話の上のことにすぎない。  
・She's **all talk** (and [but] no action). 彼女は口先ばかりだ。
- 6 **U** [主に合成語で] 話し方, 口調.  
・**U** baby talk.

『ルミナス英和辞典』の talk の項目 © Kenkyusha Co., Ltd.

日本語の訳語をスキャンするのも悪くはないが、第一に注目すべきは、語義番号の直後に示されている文法的な表示、注記だ。**C**は可算、**U**は不可算を表す。**Talks** (複数形)なので、「3. [複数形で]」に目が留まる。訳語に「会談; 相談; 協議」とあり、元の文の意味に当てはまる。辞書の例文の訳語にも「(和平) 交渉」、「(首脳) 会談」とあるので、語義3が該当すると断定する。

「5. 語義の選択」は重要なステップである。以下のような情報を手掛かりに絞り込みを行い、クリアしなければならない。また、似ている用例を探すという方法も有効である：

名詞：可算・不可算 (**C**・**U**) [countable・uncountable]

動詞：自動詞・他動詞 (**I**・**T**) [intransitive verb・transitive verb]

形容詞：限定用法・叙述用法 (**A**・**P**) [attributive・predicative]

サインポスト (英英辞典の意味の小見出し)

定義/訳語

選択制限 (p.7 参照)

太字 (文法的パターン、成句を示す)

# Contents

はしがき	
この本の使い方	4
辞書の使い方 (1)	6
<b>Unit 1 The Story of Wagashi</b>	10
一人称・二人称を使わず客観的に書く	
<b>Unit 2 Architecture: Japanese Castles</b>	16
文の繋がりを意識する	
<b>Unit 3 Matsuri : Festivals in Japan</b>	22
ほぼ同じ意味を持つ別の表現を考えてみる	
<b>Unit 4 Japanese Corporate Culture</b>	28
Paragraph の基本構造を理解する	
<b>Unit 5 Examination War</b>	34
Topic Sentence から Supporting Sentences	
<b>Unit 6 Uniqueness of Japanese Trains</b>	40
Supporting Sentences から Supports	
<b>Unit 7 The Key to Long Life</b>	46
本論の展開方法を覚える 1 : 理由や根拠	
辞書の使い方 (2)	52
<b>Unit 8 Distinct Style or Neglect of Identity?</b>	54
本論の展開方法を覚える 2 : 時系列	
<b>Unit 9 Drinking Rituals</b>	60
本論の展開方法を覚える 3 : 意見の並列	
<b>Unit 10 Traditional Crafts in Japan</b>	66
序論・本論・結論の役割	
<b>Unit 11 Home Video Game Consoles from Japan</b>	72
結論を書いてみる	
<b>Unit 12 Onsen Hot Springs</b>	78
序論を書いてみる	
<b>Unit 13 Folktales: Sensitivity to Things and Nature</b>	84
集めた資料からアウトラインを作る	
<b>Unit 14 Mythologies and Legends: Sense of Time</b>	90
アウトラインに沿って下書きをしてみる	
<b>Unit 15 From a Part to the Whole: Sense of Space</b>	96
下書きを推敲していく	

# The Story of Wagashi

一人称・二人称を使わず客観的に書く



**Vocabulary** 上の写真を参考に、「和菓子」に関連しそうな語句を集め、表にまとめてみましょう。例にあるように、似たような意味を持つ語句を複数書いても構いません。

名詞／名詞相当表現	形容詞／形容詞相当表現	動詞／動詞相当表現	副詞／副詞相当表現
・ tea	・ beautiful	・ create	・ widely
・ sweets	・ pretty	・ produce	・ gradually
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・

**Pre-Writing** [ ] 内のヒントを参考に、英文を完成させましょう。( ) には与えられた文字で始まる語が入ります。

- 1) Japanese confectionary ( c ) plant-based ( i ).  
[写真1 日本の菓子は、植物性の材料でできている。]
- 2) Plant-based ingredients ( a ) ( u ) to make Japanese sweets.  
[写真1 日本の菓子は、植物性の材料でできている。]
- 3) The prevalence of tea ceremonies ( g ) ( d ) Japanese confectionary.  
[写真2 茶道の流行によって、和菓子は徐々に発展した。]
- 4) To attract tourists to their region, artisans ( c ) ( u ) sweets.  
[地方への旅行者を惹きつけるために、職人たちは独特な菓子を造り出した。]
- 5) Nowadays, some ( l ) traditional sweets such as sakura-mochi are ( w ) known throughout Japan.  
[桜餅のようないくつかの地方独特の伝統的な菓子は、現在では日本全体に広く知られている。]

**Drop-by**

室町時代の末から江戸時代初期にかけて、オランダ、スペイン、ポルトガルからの宣教師たちが布教活動のために日本にやってきました。彼らがキリスト教とともに日本にもたらしたのが西洋のお菓子です。織田信長は宣教師から confetti を献上され、大変気に入ったと言われています。当時の日本では鶏卵やバターを使ったり、オーブンで焼き上げたりするような西洋の菓子に馴染みがありませんでした。それがキリスト教とともに徐々に広まり、その材料や製法が、日本の菓子作りにも応用されました。洋菓子の材料や製造法を和菓子に取り入れたものが「南蛮菓子」と呼ばれ、それぞれの菓子の名称も日本風に解釈されています。例えば「カステラ」はスペイン・カステーリャ王国のパン castella が語源で、英語では sponge cake、サクサクとした焼き菓子の「ぼうろ」の語源はポルトガル語でケーキ類をさす bolo で、英語では biscuit と言います。金平糖は英語の confect、イタリア語の confetti、ポルトガル語の confeitos など糖菓を表すものを語源としています。金平糖は伝来当初、製造方法が秘密とされていましたが、日本の菓子職人の工夫によって今のとげのある形になりました。